

くまもと経済

表紙の人

住永 豊武
熊本県トラック協会 会長
「物流の91%を担っています」



特集

肥後の猛婦たち ~女性経営者の肖像に迫る~ 東口駅前広場、駅ビル入口の“空間”重視 老朽化対応と人口減で、変わる道路・施設 小規模オフィス増加で、“働き場所”変化

熊本駅周辺整備

【インタビュー】

西田 啓吾 西田精麦常務 / 榎本 通也 九州運輸局観光部長 / 古賀 哲馬 ニュースカイホテル取締役副社長
上村 晋一 阿蘇立野病院理事長・院長 / 堤 純子 織月酒造社長 / 山口 紘徳 アイキャッチ社長
米満 弘一郎 熊本機能病院理事長

広告企画 Pick Up

新港のBDF製造新工場が稼働

商業ベースとしては国内最大規模



自然と未来

▲熊本市西区新港に完成した新工場(左)とタンク(右)。処理能力は約3倍になった



▲星子社長と蒲島知事、江田代議士がスイッチを押して稼働



▲今回新たに2基追加した減圧蒸留器。これにより高純度のBDF精製が可能になるという



江田 康幸
代議士



蒲島 郁夫
熊本県知事



星子 文
社長



▶関係者らが出席したセレモニー

▶同社BDFの純度の高さと商品を紹介するサンプル



バイオディーゼル燃料(以下、BDF)製造販売の自然と未来(株)(星子文社長)は3月7日、本社とBDF製造工場を熊本市東区小山2丁目から同市西区新港に移転した。総投資額は約2億2千万円。

場所は熊本港北側。同社は家庭や事業所から集めた廃食油を軽油やA重油の代替燃料となるBDFに精製し、販売を行っている。旧工場が住宅地にあり一部危険物を使用することから移転を検討していたもの。県有地を借り受け、経済産業省の「地域バイオディーゼル流通システム技術実証事業」の補助金(総投資額の半額)を受けて建設したものの。

同日関係者らを招いて開いた操業開始セレモニーで星子社長は「目標は当社の技術が何らかの形で東京五輪に参画すること。熊本から世界に地産地消エネルギーの輪を広げ、熊本の軽油は化石燃料でなく植物由来の燃料だと言ってもらえるようにしたい」とあいさつ。続いて来賓の蒲島郁夫熊本県知事と江田康幸代議士が祝辞を述べた。

新工場は敷地面積約1700㎡、鉄骨造平屋建て、建築面積458㎡。今回の移転に伴い、高純度でのBDF精製が可能になる減圧蒸留器を新たに2基増強して4基体制になり、生産能力はこれまでの3倍となる75k1/月。JIS(日本工業規格)に準拠した商業ベースのBDF製造施設としては国内最大規模となる。

(宮崎慎也)



ほしこ あや
1975(昭和50)年6月25日生まれの40歳。熊本市中央区本庄生まれ、東海第二高校-中九州短期大学卒。2010年自然と未来(株)設立、2013年7月に第22回くまもと環境賞・くまもと循環型社会賞、同年12月には環境省の「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞。趣味は旅行と温泉めぐり

「誰もやらないなら、私
がやるしかない」。廃食油
のバイオディーゼル燃料
(以下、BDF)の製造販売

の自然と未来(株)熊本市西
区新港)社長・星子文さん
は、同社を設立した当時の
思いをこう語っている。

鹿本の自然の中で養われた審美眼

星子文 自然と未来社長

る類くんを時折笑顔であや
す姿を見ながら、母は強
し」というよりも、この人
だからこそ、できることだ
ろうなど筆者は思ってい
た。が、その考えは即座に
否定されてしまう。

「よく、澤村さんだか
ら・・・」って周りから誤
解されるのですが、私に
とつても他の女性と同様
結婚と仕事を両立するの

は、決して簡単なことでは
ありませんでした。仕事を
終えて、家に帰っても家事
などやることはたくさん。
特に結婚から半年間は本当
に大変でした。それでも
続けようと思うのは、ここ
まで自分を支えてくれた多
くの人たちの期待に応え続
けたいという使命感から
だ。「もうただの『架け橋』で
はなく、私にしかできない

仕事になっていきます」と澤
村さんは自負する。

ちなみに、澤村さんに
はベトナムで家族同然に
育ってきた従兄弟たちがお
り、彼らにも日本の景色を
見せ、学ばせたいという思
いがかねてよりあった。現
在1人が崇城大学に留学中
で、来年からは従兄弟がも
う一人熊本の大学への留学
を予定している。

生まれながらにして骨が
もろい難病を抱えていた星
子さんは、学校にも満足に
通うことができなかった。
両親が共働きだったことも
あり、幼少期には鹿本町の
庄地区にある父の実家に預
けられることが多かった。
その実家というのが、星子
さんの祖父であり、かつて
熊本市長を4期16年務めた
英傑・星子敏雄氏の家だっ
た。

祖父母の家は昔ながらの
かやぶき屋根の家で、自然
と共生した生活を送ってい

サントリーで仕事のノウハウ学ぶ

た。「夏には蚊帳の中で寝る
んです。そしたら家先の川
から飛んできたホタルが家
の中に入ってきて・・・」。
まるでとりのトトロの世
界だ。星子さんの「審美眼」
は鹿本の自然の中で養われ
た。

だが、中学になると、し
だいに周囲の自然環境も変
化していった。毎日のよう

に農薬散布で白い霧が辺り
一面の畑を包むようになる
と、それまでいたはずの虫
やアメンボが姿を消した。
その一方で、周辺の道路整
備は進み、人間にとつての
利便性は高まった。何とも
言い難い複雑な思いを抱え
ながら、星子さんの子供時
代は過ぎていった。

中九州短期大学を卒業
した後、サントリーに入
社。嘉島町の九州工場立ち
上げ部隊の初期メンバーと
して、ビール事業部に配属
された。若手社員ながら新
工場の制服やレストランの
デザイン決めなど、故・佐
治敬三会長の口癖である
「やってみなはれの精神で
さまざまな仕事に挑戦させ
てもらえた。このときの経
験は、今でも星子さんが仕
事を進める上での基礎にも
なっているという。

「それじゃあ
儲からないんだよ」
BDFとの出会いは、運

送会社に勤務していたとき
のこと。ある取引先の車か
ら天ぷら油の香りが漂って
いた。「廃油を利用できれ
ば地域でエネルギーの循環
ができる」。星子さんはす
ぐさま行動に移した。

当時運送会社の取締役
だった星子さんは社長に相
談し、社内にBDF普及啓
発部門を立ち上げ、精製へ
の試みを進めていった。し
かし、同社が倒産してし
まったため、存続が難しく
なった。「このまま立ち切ら
せるなんて・・・」。そう考
えた星子さんは、2010
年に自然と未来(株)を立ち
上げた。



2013年12月、地球温暖化防止活動環境大臣賞の授賞式で石原伸晃環境大臣（現・内閣府特命担当大臣）と写真に納まる星子さん

だが、現実には甘くない。「これがうまくいけば熊本を世界にPRできるんですよ」、「あなたの気持ちはおわかる。でも、それじゃあ儲

「あきらめの悪い経営者を 目指そうよ」（小野副知事）

会社設立から1年半が経っても、事業は一向に上向かなかった。産廃業者からの脅しや誹謗中傷は続き、廃油も集まらない、さらには運送会社の破産処理にも追われ、一時期は精神的にも挫折しかけた。「もうダメだ、もうやめ

からないんだよ」。営業に訪れた石油会社で必死に訴えるも、なかなか思いは届かなかった。

よう」。憔悴しきった星子さんは、当時の小野泰輔県政策参与（現・副知事）にポロリと弱音を漏らした。すると小野氏はこう言葉をかけてきた。

「文ちゃん、最後に勝つのはいつだって、あきらめの悪いヤツなんだ。ほくたちも応援するから、文ちゃんにしかねない、あきらめの悪い経営者を目指そうよ」。あきらめが悪い……一見するとマイナスにもとれることばだが、そのときの星子さんにはとても新鮮で、心に強く響いた。「それまで会社を守るのに必死で、経営者はこうあるべきという既成概念にとらわれていたんです」。星子さんは、家にあつた著名な経営者による経営本をすべて捨て、幼少のころ、父から聞

いた星子家の教えに立ち返った。

『物事の判断基準は正しいか、正しくないかよりも、美しいか美しくないかだ』。星子さんにとつての美しさとは、幼少期に体験したあの鹿本の大自然に他ならない。ならば、それを守るために、私がやるしかない。まず、事業の認知度向上に向け、さまざまなイベント

医療から介護へ、改革を断行

大浦敬子 ピュア・サポートグループ代表

体育以外は オール5の優等生

「実は、大学くらいのころから思っていたんです。私は将来医者ではなく、経営者になるんだって」。そう話すのは医療法人社団大浦会（熊本市中央区水前寺）を中核に病院、福祉、介護施設等を経営するピュア・サポートグループ代表の大浦敬子さん。

大浦さんが生まれたのは1962年、父・大浦辰夫氏が水前寺に大浦外科医院

に積極的に参加し、主婦たちのコミュニティも親交を深めた。しだいに周囲からも応援の声がかり、それまで消極的だった事業者からも賛同の声が相次ぐようになった。

2013年には、くまもと環境賞・くまもと循環型社会賞、さらには環境省の「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」と立て続けに受

賞。失敗を恐れずチャレンジを続ける星子さんを、蒲島郁夫知事は「第二のくまモン」と評している。

今年3月には本社工場を熊本港に新築移転した。同社の新たな船出を迎えた星子さんは「熊本から世界に地産地消エネルギーの輪を広げていきたい」と今後の抱負を述べる。

※27ページに関連記事

を開業した翌年だった。その当時は、医院スタッフや看護師見習いなど皆が住み込みで一緒に暮らすのが当たり前前の時代。大浦さんは、さまざまな人に囲まれて幼少期を過ごした。

「全校生徒2千人の帯中（帯山中学校）でかなり成績

が良かったので、熊高に入學して驚いたんですよ。みんな頭良い！って」。熊高時代は勉強に精を出していたそれまでの大浦さんとは打って変わって、ぼーっとした無気力な学生生活を送っていたという。そんな熊高時代を今振り返ってみると、得たものもあった。それは生徒の自主自立を尊ぶ熊高の3年間で、自己責任について思い知らされた経験だった。

「できないのは自分のせい、勉強していないことも



▲左から上林・熊本県宅地建物取引業協会副会長、工藤・ヒューマン社長、三嶋・総合プラント社長

▲後列左から斉藤・ホテルキャッスル社長、堤・織月酒造会長、堤・織月酒造社長。前が大浦・ピュア・サポートグループ代表



▲崎元・熊本保健科学大学学長と岩下・岩下兄弟社長



▲幸田・熊本学園大学学長、星子・自然と未来社長



▲水野・九州総合サービス副会長、上野エフエムやつしろ放送局次長

◀左から、片岡・KKT社長、山本・サンテクノ顧問、與繩・県労働基準協会会長、大森・大森産業社長、竹下・熊本銀行頭取、片桐・寺原自動車学校社長、徳永・地域情報センター社長



▲蒲島・熊本県知事を囲む参加者ら



▲(前列左から)竹田・竹田龍平商店旭櫻三代目、松岡・鈴の家社長、(後列左から)山口・元熊本中央信用金庫理事長、坂田・能楽金春流金春松融会理事



▲森・熊本城北学園理事長、出田・平成音大学長、米澤・ヨネザワ社長、富永・アドルム会長



▲横山・瑞恵社長(左)、堀内・杉村病院院長



▲西・ネットトヨタ中九州社長、藤本・藤本物産専務



▲大堂・小竹組社長(左)、橋口・橋口石彫工業社長



▲松木・松木産業専務、永井・永井運送専務、吉弘・吉弘鋼材常務

くまもと経済レセプション参加者の顔



【前列左から】
北村 秀一・北翔工業社長
永松 守・熊本県中古自動車販売協会会長
宮本 一斉・くまもと愛知県人会事務局長
安田 二郎・熊本市新市街商店街振興組合理事長
大熊 文男・企業情報ネットワーク常務

【後列左から】
廣瀬 智一・ジャストウェルパートナーズ社長
榎田 光郎・ダイダ熊本支店長
寺尾 幹・寺尾病院事務部長
村田 洋吉・水前寺とらや専務
香川 茂三・カガワの自転車専務
下田 眞一郎・ヒロ・デザイン専門学校校長



【前列左から】
小山 雄治・熊本産業文化振興グランメッセ熊本常務
田尻 安幸・OAテック社長
上林 節郎・熊本県宅地建物取引業協会副会長
早咲 京子・咲社長
紫藤 啓一・キョウビシ営業部長

【後列左から】
植村 到・ホームセンターサンコー取締役管理部長
山本 崇生・新生堂取締役営業本部長
中村 正浩・オフィスナカムラ取締役
佐藤 達郎・谷脇ビル取締役
上妻 史彦・九州総合学院九州工科大学自動車専門学校副校長
藤本 健・フジチック専務



【前列左から】
中嶋 昭仁・ユー・エス・ビー社長
松村 璃座・Member'sフェイス代表
小佐井美保・菊池笹乃家副支配人
寺岡 明美・メゾン・ド・テラオカ代表
吉田 一幸・トヨタカローラ熊本専務取締役営業本部長

【後列左から】
分造 一義・三角海運専務取締役
向井 康彦・公益財団法人熊本観光連盟専務理事
川島 孝之・アロウス法律事務所長弁護士・税理士
猪毛尾彰宏・下通繁栄会副会長
齊藤 誠治・エス・エス・齊藤社長
磯田 泰弘・ドコモCS九州熊本支店法人営業部長



【前列左から】
湛 直樹・湛酒店代表社員
西山 崇・総合企画社長
北島 省吾・こくぶ部長
松茂 信吾・ダイケン社長
星子 文・自然と未来社長

【後列左から】
山本 郁夫・光陽熊本支店常務
大典 大典・中央自動車学校常務
塩森 孝雄・産紡設計社長
岩佐 造典・明治生命保険相互会熊本支社 法人職域開発推進課長(熊本支社 代理店営業室長)
岡本 圭典・日本リージャスジェネラルマネージャー
大坪 隆之・ヒューマン専務



【前列左から】
坂本 幸樹・プルデンシャル生命保険熊本支社部長
舞田 靖子・西村あさひ法律事務所弁護士
池田口都美・大生ファミリー社長
増永 諭・増永倉庫社長
池田 弥生・日本Share & Care 社長

【後列左から】
裨田 憲秀・キョウビシ専務
仲島 光晴・豊建設工業専務
堤 隆志・堤写真館会長
本田 忠徳・本田農園社長
岩永 智子・岩永製茶園代表



【前列左から】
守尾しのぶ・守尾しのぶ司法書士事務所 司法書士
本田 勝蔵・淡路機材社長
田代 あや・パンケット・カトリア社長
白石 伸彦・ウルトラハウス会長

【後列左から】
内山 昭彦・熊本学園大学広報室長
武田 匡弘・タケダコーポレーション社長
村上 雅一・飯塚電機工業管理本部副部長
花田 正寿・福岡銀行熊本営業部副部長
野田 博行・サンビデオプロ社長
伊津野頼嗣・大海水産管理部課長